実践記録

学校/学年	小学校 / 4年	
教科等：単元名	道徳：電子メールのルール	
キーワード	情報モラル 携帯 メール	
情報モラル指導モデルカリキュラム表における目標	分類	情報社会の倫理 法の理解と遵守 安全への知恵 情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	a：発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ
	中目標項目番号 中目標項目内容	a3-1：他人や社会への影響を考えて行動する
授業会場	パソコン教室 普通教室 特別教室〔 〕 その他〔 〕	
学習の目標	メールでは、一方的な情報しか伝わらないため、誤解やいじめが生まれることがあることを理解する。また、そのような場面に出会ったとき、自分は何を考えどう行動したらよいか考えを持つ。	
使用教材	教材名	事例で学ぶ Net モラル 「メールって便利だね。でもマナーも大切」
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先(URL等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶ Net モラル」

展開案

	学習活動	指導 評価
導入	1. 前回行った学習を振り返る。 前時の「メールによる文字だけでつたえるためのむずかしさ」を振り返らせる。	前時の『事例で学ぶ Net モラル「文字だけでつたえるたのしさをやむずかしさ」の学習から、メールは、楽しく便利なこともあるが、文字だけなので、誤解を生じることがあること、実際に話をした方が気持ちが伝わることを振り返らせる。
展開	2. プロジェクターを使い、「事例で学ぶ Net モラル」を見る。 3. 何が問題だったかを話し合う。 4. 最後の場面には、いろいろな顔をしている人がいるが自分ならどの顔をしている子になるか考える。(避難する立場・傍観者の立場など)	・最後まで見せて、何が起こったか、また思ったことを出させ、問題に気づかせる。また、問題の場面・重要な場面を再度見せる。 ・メールでは、悪口を簡単に広めることができること、それによって、メールを見た人はメールの内容を信じてしまい、いじめのようなことになってしまうことがあることをとらえさせる。 ・メールが広がった翌朝の教室の場面で、行った顔、困った顔、笑った顔などのクラスの子がいるが、自分がこの場面ならどの顔の子になっているか、どんなことを考えているかを考えさせる。 自分をそのクラスの中に当てはめ、自分は実際に避難する立場・傍観者の立場のどちらになっていまいかを考えられたか。
おわり	5. このあと、どのように解決していけばよいかを考える。	悪口を書いた人と書かれた人がこの後、どう解決していけばよいか、自分の言葉で考えられたか。

授業の成果

- ・メールは、事実以外のことや悪口を簡単に広めることができてしまい、見た人はそれを信じてしまうことをおおよそ理解することができた。
- ・最後の場面を扱うことで、メールに限らず、いじめや集団による無視などよくないと思われる場面に出会ったときの、自分の対応について考えさせることができる教材である。

指導のポイント・留意点

- ・メールの怖さだけを強調することなく、便利な点もおさえる。しかし、時間や扱い方などについては、しっかりと確認する。